

裏磐梯だより



磐梯朝日国立公園
裏磐梯ビジターセンター

No.83
2017年3月

小さな世界⑱

まるで神事に使われる「はらえくし祓串」かアイヌ民族の「イナウ」のような様子です。これは、ダケカンバの樹皮に近づいてみた姿です。

一般に樹皮の外見はその種類により千差万別です。例えばアカマツの亀甲模様、ミズナラの深い縦裂など、特徴的です。ダケカンバのそれは、とても繊細。色からして明るい灰茶色で、とても薄く紙のようにはがれます。

樹皮は内部の木質を守るのが主な役割と考えられますが、樹木は成長とともに幹が内側から太くなり、だんだん樹皮が窮屈になって割れたり裂けたりします。

それがダケカンバの場合は、樹皮組織が毎年新しくつくられるので古い樹皮がどんどん剥がれていくそうです。寒い季節にアイヌやマタギは、これを点火材に使ったといいます。

イエローフォールを見に銅沼周辺を歩いたとき、小さなタイヤのように丸くなったダケカンバの樹皮が、風に吹かれ小動物のようにどこまでも雪原を舞っていました・・・。

(「ダケカンバの樹皮」2017年3月8日)

20 年 月 日
来館記念スタンプをどうぞ